

# 降誕前第6主日

<b>朝第1礼拝</b> 9:00~10:00	<b>朝第2礼拝</b> 10:30~11:45	<b>夕礼拝</b> 18:00~19:00
〈神の招き〉前 奏	① 主イエス・キリストよ、我らに向き給え ② われ悩みのきわみにありて ☒ ただ神のみ心にまかせる者は	バツハ バツハ クレプス
招きの詞	詩編 133 : 1~3	
交読詩編	105 : 37~45	
讚美歌	1	
〈神の言葉〉聖書	イザヤ書 60 : 1~3 マルコによる福音書 4 : 21~34	(旧約 新共同訳 1159 頁) (新約 新共同訳 67 頁)
祈 禱		
子ども祝福②		
讚美歌	106	
説教	「神の国の恵みに生きる」	熊江秀一牧師
祈 禱		
黙 想		
讚美歌	544	
〈神への応答〉使徒信条		
献 金		
主の祈り		
宣教報告☒☒		
頌 栄	24	
派遣と祝福		
後 奏	① 神をのみ愛する人は ② イエスはわが喜び ☒ ただ神のみ心にまかせる者は	バツハ バツハ クレプス
宣教報告①		

**今週の御言葉**  
(マルコによる福音書 4 : 21)  
また、イエスは言われた。「ともし火を持って来るのは、升の下や寝台の下に置くためだろうか。燭台の上に置くためではないか。」

## 次週の礼拝(11月26日)

① 9:00、☒ 18:00 説教 「土の器に宝を納めて」熊江秀一牧師 詩編 116 : 1~11、2 コリント 4 : 7~15 交読詩編 17 : 1~12 讚美歌 2、54、227、24	② 10:30 創立120周年秋の記念礼拝 説教「神の恵みにより価なしに」藤盛勇紀牧師 エレミヤ書 31 : 31~34、ローマの信徒への手紙 3 : 21~26 交読詩編 17 : 1~12 讚美歌 16、358、402、24	ワーシップ(賛美礼拝) 15:00 説教「神の宝物」熊江秀一牧師 イザヤ書 43 : 1~5a 賛美: 御名を掲げて、他
---	--	--

\*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。\*は祈禱当番の方。\*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、☒は夕礼拝。

**■今週の祈禱課題■** 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に 2. 東日本大震災とトルコ・シリア地震の被災者の為に 3. 創立120周年秋の記念礼拝・愛餐会の為に 4. 藤盛勇紀牧師・藤盛純子伝道師の為に 5. 教区按手礼式の為に 6. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に 7. 病気の兄姉の為に

**\*関東教区お祈りカレンダー** 浦和東教会 大宮教会 東大宮教会

◇先週の説教より 「実を結ぶ者」マルコによる福音書 4 : 1~20、イザヤ書 56 : 10~11 熊江秀一牧師

<p>主イエスはよくたとえを用いられた。「見るには見るが認めず、聞くには聞かぬが、理解できない」私たちに「神の国の秘密」を示すためである。</p> <p>今日のたとえは、道端、石地、茨の中、良い地に蒔かれた種のたとえである。主自ら解説もして下さった。私たちはこのたとえで人間を4種類に分類してはならない。むしろこれは御言葉に対する4つの心を示す。私たちはある時は道端、石地、茨の地であった。初めから良い地ではなかった。農夫は実りのために、長い時間をかけ手入れをして実りの時を迎える。農夫である神も、私たちの実りのために石地を砕き、茨を焼き、かたくなな私たちの心を耕し、種を蒔き続けられる。</p> <p>この神が蒔かれた種、神の言葉は主イエスご自身でもある。主イエスは受肉した神の言である。</p> <p>ドイツの詩人ゲーテがこんな詩を書いた。「あの種蒔きの男みたいにならしてはいけませんよ。」</p>	<p>あの男ときたら、偶然のいたずらに身をまかせ、こちらで道の上に種を蒔いたかと思えば、あちらで茨の中に種を蒔いてしまった。そんなことをしてはいけませんよ。耕された土地の上にだけ、祝福を蒔きなさい。</p> <p>ゲーテが言うことは人間の知恵で言えば常識である。しかしもし神がこのような姿で私たちに係わり、良い地にだけ、種である主イエスを蒔いたとしたら、救われる者はだれ一人いない。</p> <p>神は人間の知恵から見ると愚かとも言える姿で、御言葉の種、主イエスをすべての人に下さった。良い地だけでなく、道端、石地、茨の心にも主は来て下さった。そして主の命による実を結んで下さった。</p> <p>神はこの時も、私たちに主イエスという御言葉の種を蒔き続け、私たちの心を耕し、主の命の実を結ぶように手入れをなさる。実を結ぶ者として歩もう。</p>
---	--